筆道指南早學問

二

4 第6
571
2

京都帝国大学図書

千 6
書 巻

▲結構七十二例

怪石

永字八法

同勢

▲怪石八法字頭点

上体乃四字もしくは側長と
用ひらるし山怪石乃長い
字乃ひろ乃ひろき点乃れいま
乃乃長ひ点乃怪石畜珠乃三
点わ和ゝく同ゝ乃ゝ乃ゝ怪
石い字畜乃和ゝ乃ゝ乃ゝ
点乃永字乃長点乃
字殊い字畜乃絶ゝ乃ゝ
治儀乃乃長乃

一字八法具備　永の一字ふ
側勒　努趯策　掠啄磔ハ八
法具ふ備りて法字の模式必
学者須当玩味

▲怪石

▲例紀十四点之分一

▲此点乃形あやしきさまを並べる
やうなる石ふ怪石と名付るし
▲永字八法ふくいたと側長とひろ
乃等怪十四点ふ跨張又ハ跨過とも
七十二点ふいたと怪石しひろし

怪石

二 三 四 五

右一点八法乃名除乃口義

一 落　い字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ

六 傍　とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ

七 同　とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ

八 跨　とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ
とい字と打点乃ゝ乃ゝ

一字八法具備
學者須當玩味
吾道一以貫之
升堂必能入室

法典須

○禁邪点 点撥ハ撥字ハ法乃和解 点側ハ点の総ハ点く永字ハ法乃第一筆しハ点を側と云ハ左方脇と撥筆撥とむしかつ点めく紙ハ点く逆潦と勿一回優そく めぐく 鬱ハ乃ハ乃ハ点くして第七ハ点 波撥し と く第七名鑑乃引とて ち勿乃実と主るとん点ハ 花柏柳乃口交ありと線す 側と云ハそぐちる反ハ名 ぬくるし 蹈躍 蹈遍とハ暗乃河ことりしるが 名ハ法乃 点ハ点 名ハ法乃 点ハ点 名ハ法乃 点ハ点

▲杏仁点ハ　これも式法なし
尖勢直撥の点なし右点
用ふる杏仁の点は右方より
左方へ点一用ふるなり

以白爲王左右蟠龍

樂乃字の中の白乃字を
主として左右の幡龍乃
点をそえてなり
下の一と爲とちがひ
聯ちがひなり
式杏仁点の側に付三乃点
なし

杏
仁

正白一匀　輔聯二点

樂

平　齊

平平　左右蟠龍点乃ごと
と同じ　左杏仁右梅核乃ごと
齊齊　八ツ点ひとしくとべきなり

以白爲王左右蟠龍
正白一匀輔聯二点

▲此四字梅核点ヲ用ル字

梅核

羔鯨舡弁

▲梅核五訣左点爲

上傳乃四字なる梅核、
点式如なるなし　梅核式如
い右杏仁点ハ右へ
杏仁点なし　梅核い右方
なり杏仁乃式法と右方
の点ハ梅核いの左
乃方より書と点なし

▲例紀十四点之分四

梅核

▲此点乃形い梅核乃ごとく
梅核と名なし式法い杏仁点
左へ曲しなる如し杏仁梅核式
式法乃後　尖　点とちがひ
ちがう左ハ尖と尖りちがと
点尖より揚と点乃い尖ハ
核乃中へ入ハ揚点　圓　尖
点乃肚い尖裏の

梅核

鉄柱　玉案　曲尺　内二玉案　島喙

貞

一字三停格度分明
下筆斟酌須要認眞

此註有上

玉案　今ハ玉くい与藏新
案乃三法と用ひし
案乃他と省略し狹核
ハトと省略し多ハ
核と縮く省略し四ハ
案火器と用ひ及これと
斟酌してこれ斟酌いうとこ
ろと貞と停ちの肝要なり

鉄柱　点も上絵下点中骨乃三法と用ひし
内二玉案　点目乃中の横三点いる玉案ハ点
曲尺　点曲尺乃中の法と用ひ
ひ永字乃如点縦横と用ひ
梅核例紀の如ひし

ひとしく点く点く弯し　核梅

▲例紀十四点之分式

▲此四字懸珠点ヲ用ル字

懸珠

焦燕魚驗

懸珠横排反勢

懸珠ハ四点なり　核排ハ
式点核ハ四ツ点なり
反ハ横ハ

懸珠

絲入四点
帶出
少帶
不帶絲

▲式点の形い式と解ひ
反ハ右付ひし

元正懸珠点絲入点
い表後乃辨し四ハ初点
して天の点ハ四ハ点
ハ三点四点ハ点
ひとり弁し

不帶絲

左旬右傍大　底下安四点

たい旬とは鷲の字の左旬の字とも点畫で分る
時はいの字啄の点くつは
神口の点ンは龍巫の点
なり右は火と偏ニは一は
玉栗の点ノは懸戈の
点なり、は寺珠の点も
、は猿猿の点も底の
下は懸珠の点も底の
なり是別例点の変化

法法要周入王　清清留格眼

法くは右は所謂ノよりは
は辺の点ノは法より周全と
ノは貯蓄の点し法くは字の

▲此四字群鵲点ヲ用ル字

群鵲

辭隱靜援

▲群鵲擯裏永精

は点は鵲の辭りは字の
点は字の精を求て可也

▲側紀十四点之第六

群鵲

凹

三点排旬
上撒蓋蔵
空旬則可

は点は旬の字の辭の字ごとく
なれば縱横しく点つるし

【三点排旬】は三点ノ旬
ら旬くは可しし　上撒

ノは点は撒の点し下の三点
は点は点ノは書ノは

【蓋蔵空旬則可】蓋蔵く
は所蔵白旬は小間ドやうな

左旬右傍大　底下安四点

たい旬とは鷲の字の左旬の字とも点畫で分る
時はいの字啄の点くつは
神口の点ンは龍巫の点
なり右は火と偏ニは一は
玉栗の点ノは懸戈の
点なり、は寺珠の点も
、は猿猿の点も底の
下は懸珠の点も底の
なり是別例点の変化

法法要周入王　清清留格眼

法くは右は所謂ノよりは
は辺の点ノは法より周全と
ノは貯蓄の点し法くは字の

【則不可】は帯線は猿の字の字は
帯線法は猿の字は点畫で分る
。たの初点は　は点は
の点は点は点は
線はつるは点は

▲此四字瓜種点ヲ用ル字

瓜種

柰侯秀贅

▲瓜種斜横有理

は点は斜横はく瓜種
は点は理

一字三四言　都來共一擯

贅の字三四言は共一擯
支香の三言し又声支禾
日毛四言し付三四毛とは
一は前は付は贅の字し

瓜種

磬

一字三四言
都來共一擯
筆法谷清清
空眼一般般

側紀十四点之第七

は点は瓜種は斜横は
は点は理

【支。斜斜來】は点は斜支は
は点は斜は

【角角】は点は上角

左山小小様　右爭大大傍

たは左は山は小は左は様
て右は左は爭は大は傍

小間恵暢　高低要相讓

たは山は小は右は爭は大は傍
間恵は暢は
高は低は要は相は讓

▲此四字群鵲点ヲ用ル字

群鵲

崢

左山小小様
右爭大大傍
大小間恵暢
高低要相讓

は前は字は可は字は間は暢は
は字は爭は大は傍は
は字は讓は可は字は

撰いあのひらくしあわしあてあの清く書べし空眼いま中乃白紙乃象一般あのひらく
ものやうふしく上下乃物合後御多ふくんとめらく付く書つこし

業法各清清 空眼一般般

▲此四字鉄鈴点ヲ用ル

鐵鈴

率犀章扇

▲鉄鈴重梁無書

式点新鉄乃後小縦ヶ乃書
梁いまいおり梁ハ法梁
あれいまつ式点乃後の
まあく法梁乃つ式ると
新べし 本新ものい鉄後の点
乃つ式るものもつ乃

金匂二字併必須要躰閃
上下一般齊 不許有長短

鐵鈴

鈎

▲側点十四法ヶ第八

式点ヶ形鉄乃後小縦ヶ乃後鉄
鈴ヶ名付ル

金匂二字併
必須要躰閃
上下一般齊
不許有長短

物乃また色い金乃ま右傍ハ匂色を要く左右小引色
物乃ま乃畫ヶと合る間ハ左 疑乃ま乃後小縦と色を引ま
二ハ色玉楽 一ハ玉楽 一ハ鉄後し
とハ別色鉄後し 後小新と下一般小物
ま乃ものもの色に法ヶ ま乃乃勇しもんとも
ま乃ものもの色に法ヶ ま乃乃勇しもんとも
ま乃ものもの色に法ヶ ま乃乃勇しもんとも

麟の字の左の点は鹿字の一の点と同じ草の字の
点と同じ右の点は米舛字の
点とあいまぜて書くと
るなり点と結構して麟の字
わかくたの点の麟の字の
ちうちうこうこ此字も一書こうこと皆分てこ筆法の勢力を熟考へし

米舛宜長　鹿字宜短
此注上に倍解す

米舛宜長　鹿字宜短

右点元書
[illegible]
[illegible]

菱米

鼠梟泰電

▲此四字皆菱米点の加字

菱米四方　齊備

此点の形ち菱米の似る故名付此字点を部字方と
四点と長点と点と点と
あるこやうの字すべひ
そのつくり

側点十四法こ第十一

▲此点菱米の形ちのごとく故
名付し　四下八方一小出不入
是点の部の四方点内の四方
左右上下出入る他かく点の
形ち結合凡合打居書ひし
四方上下ひ出入かく筆法書とこし

各接法度

帯細

右左二組

菱米

米

四下八方本出不入本高不低

帯細

各接法度

菱米

雲

▲一玉一案二寶蓋
三鐵一柱四菱米
五玉案六蟠龍
共筆勢攢雲起

此封解す

それ攢簇の点こ初玉案ひ
部ち雲の字ひ
菱米点い側点の変化十こ

▲此四字は鶏頭点の加字

雞頭

慶憲思戀

▲雞頭三勢完全

雞頭は此三点の
鶏の冠と見るごとくこ
つくり
こ

雞頭

八

二点
平些
香仁下些

二点平些

此二点は一平の書
些こ

側点十四法こ第十二

此点形鶏の冠の如ふ
是い上ふ
吉仁下些
是い上ふ
吉仁
の点ひ
こ下を短く書

雞頭

恩

分二停

▲因一字要竪長
心一字要横長
因心分二停
句挑因角方

此註上に解す

垂珠

治儀載獻

此四字垂珠点の加字

垂珠

氵

陰　大圓

側点十四法こ第十三

此点形い
[illegible]
[illegible]

斜長大圓

▲垂珠俯御合和

垂珠 ◦此点乃形中俯又ハ仰作ハ之やうにそ殊とそれなるとくふくるとも

横四竪止二 空眼般般備

封乃字たを〻横四点竪二点右色横一点たれ射くを眼般般備点在二竪中 寸横圭二射

楽乃中交ハ打くるくるし拙又すと横圭ハ二のあくる射ちてう一分高さくつりあひ乃法猶間楽とたをたるるハくるひ〻兒のをちりして垂珠ハ例点乃変十三ゆり

横四竪止二 空眼般般備 点在二竪中 寸横圭二對 此註二解

▲此四字皆蟹脚点ヲ用ル字也

蟹脚

學舉韜焰

▲蟹脚横斜曲扭

蟹脚丁 此点横ハ斜ハ曲ハ蟹脚ハ例ハ曲ハまるし扭ハ扭とハ曲ハまるし横ハ斜ハ曲ハ横ハ斜ハ曲ハ

蟹脚

玉案 玄

玄聲点乃乃上りてあるつゞ斜ハのごとくるる丸なり

[玉案玄斜] 毛玉案乃点

蟹脚

玉案 細絲斜直下

[細絲斜直下國] 弟細い上ハ玄ごとく点書ハ弟つくく細い糸ハ斜ハ線ハくめハてもぐハ引おさまるるハあくるとも

▲例点十四法ノ第十四畢

此点形蟹乃脚ハ例さの般名ク

[玉案玄斜] 毛玉案乃点

徹地要衡天 孔孔俱相穿 九層玲瓏閣 横竪眼一般

黄乃字ハ地中を形さ作り又天ハもつさ微ちくに黄ちさ乃字ハ横乃字ハ微乃字ハ地乃字ハ横乃字ハ地乃字ハ横乃字ハ地乃字ハ横

を肝要の事法なり
撲畫いまかをさろ紙の
玉案の点より撲をつ
さるべし

横六連口穿 都要一般寛二
壽の字撲の六所竪の
点を連て引筆ち点く
をして一般ふひろさやふ
もるの所要なり

下面寸和口 分中不許偏
下の面を寸すの字
口ふ和もるし和もるとい
すの字ながにのなふやの
ごとくにとすれば
の竪の点の中を分て
かくるるのをゆるさでるとん
ば壽の字勒点一十法の
ごとめも玉案の点所ち
勒点ある級ふ作しるる
なり此点永字の筆二毫
ゆて横畫の紙なり

玉案

横 壽

横六連口穿
都要一般寛二
下面寸和口
分中不許偏 此註上解

蔡邕雀頭三撥ル永字八法ヽ和解 三曰一者撲畫の紙
ゆて永字の筆二筆ゝ此点名勒ヽ云ハ筆紙撥て
右ち折く運筆をゆ一筆紙回ヽ左ち勒ヽ
ゆ毛後疾ありとく 注云
勒いる纏なり今云ハ勒

斜案の字ゆ一筆先と紙ゆちくと打付て
毫拔筆紙左へ書ま右折も強折いかうく折も
打止とそくめんとちる所をくあるの沒の形
ゆて斜ふ初ヽ細るも濃い大あるのあるく曲も
案いてゆくいおくも玉案点ゆくい九案ゆく
初ヽ折もをすこ云ハ日さこ初ヽまづさと云い紙
筆ゆ筆の陸切の人あるのあるヽ形をたくく紙
吾云ふゆて可ヽ筆也此細紀ゆヽ云ハ形案ヽ
字ちくく自得をべヽ行口傳ありとく

○永字八法ヽ

此四字石楯点ヲ用ル字也

石楯

躍 謬 翼 翫

石楯竪竪求勾

石楯羽此点ゆの竪の
両上も下も同ヽ格ふ
ちて可ありヽ

石楯

羽

玉案皆
要珍瓏

横皆玉案

勒点十法ヽ第二

此点形石の楯ふ似るる故名ク

撲皆玉案

撲の二四点
皆玉案ヽ

轉角法

要珍瓏

折て角と折ちくく作文をヽ一ゆ切勒ヽ
珍瓏い美ゆちり玉案四点とをりき

○永字玉篇之作ふ云 勒い中ちく友勒ひ
ちて点ふ平るるをと惠ふとく毛ゆ紙ゆ作ふ云ヽ

云勒濃ゆふ字ゆ用ヽくたゆ毛ゆ
法れい勒点い永字ゆ二筆ゆて筆毛をあゆめく右ち折折運法と
ゆ一筆をめヽ〜たちり勒ちる毛後疾ふちくく
とくく勒濃とちり判ちくある故勒と云ちくく
毛勒と云いを筆紙作ちるの寸ゆ筆の拂ちたをひそあ法
ふ毛ヽく極く永ひきく中ちく友勒ひちく筆ふゆく毛厭ちり又
勒ヽく云い毛躍筆ゆ
と使ひ永ゆ自ちゆ切武ゆ
の法 勒いたれ紙紙ゆ
たちたゆヽ三可法ちく
ちた友ふ平るるをと惠ふとく毛ゆ紙ゆ作ふ云ヽ

○雀頭三撥ル永字
○永字玉篇之作ふ云 勒い中ちく友勒ひ

頭上二横山 車肩一担擔
軍のまうしらの上の羽を
山のまと横ふ横山とより車
乃字の肩ふひろへふ肩
ろ角し
連山帯車数九重一般寛
連山らの羽乃ゆくしらと
横ふ二河ゆくへらの角し放ふ連山とろ
合て軍乃字とゆ一九重一般ふひろくゆるやうれ角ゆるやうふろくるれ

玉乃ろく書ゆ所要り

石偏 軍 音灰 疾也

頭上二横山 車肩一担擔
連山帯車数
九重一般寛 此註上解

▲勒点十法之分三
山梅鉄乃城と見るべきところ
出筆ト接続 筆毛先とれ
出ー抜下ろし 内弯細此二

内弯細此内直 内直 外弯 玉案 嵩 圓 外弯 轉角小勾

鐵城

▲此四字鉄城点ヲ加ル

鉄城 □ 点形四角ふ
鉄城と乃ろ
剄跪ふくまーころ吉

圓 圓 圓 圓

▲鉄城四方俱善

鉄城四角全或字在中間
鉄城乃角へ四方の角
まて囲ふくまて
ろなり或乃字は藤乃
中間ふ垂線中と思ふ

筆毛先ふ上ある加内ふ角し弯ふ
又細くゆーころ使ふ右筆ハゆーくさ抜して結合ふ紀
狂とろふ角ー 内直外弯 乃左右乃角外
弯内ハ直ふるやふ書ゆべー 轉角小勾 角と
ハ弯ゆーかゆ挑ろふ 玉案写 玉案と書写
てよろし 圓 上乃ゆー又竪乃左右ふ服と付

上戈下撇中玲瓏不許粘
上ハ戈なり下ハノなり
ハ撇なり下ハ乃肩と
撇乃尾と中ふ服を付
て書ゆ所ふ点を
く筆乃ゆ点を
可出こ筆ワ付ろ格ふ
ゆーも書ゆたるれそれと不許粘

鐵城 中 國 中

鐵城四角全
或字在中間
上戈下撇中
玲瓏不許粘 此註在上

▲此四字折釘点ヲ用ル

折釘角轉 一雪

折釘角轉ハ打てれ
ろ角ハ打てれ
ろ角ハ筆先を出
角とまるめれてひと
角にかひちなり

朝蓋船翰

犬臣一巾擯獅 無人得知六竪
獅乃字犬臣一巾とり
あれやく獅と竪乃
ハ六乃竪乃ら沉程ふ
点撥空眼分明 今朝説破此趣
点撥空眼分明今朝説破此趣
ちめー今程ふ所
現代現代ー

折釘 特用

獅 六 竪

▲犬臣一巾擯獅
無人得知六竪
点撥空眼分明
今朝説破這趣 此註上解

▲勒点十法之分四
山点打とれ
出筆特用 角 玉案 山又若

くさくと云ふ或ハ思故帝故あゞ乃破乃字ふ因ふし又遠ハこのと筑又ハ迎ゆり

吟蛩

節卿鄉鄉

▲此四字吟蛩点ヲ用ル字

▲節字音節字

節ハ音節なり

上頭頂是竹兩邊節與民

節のまの頭頂是竹と冠らゝ其ハ節ハ竹の中と繋ぎたる民なり竹の中穿ぬ線来分傳節與民

吟蛩

節

節也

音節

上頭頂是竹兩邊節與民竹中穿線来分傳節與民

一註上解

吟蛩

四法

節

勒点十法之第五

点ハ吟蛩点ヲ用ル字

四法 節ハ節也節ハ之也節ハ阜也節ハ色也

玉案 角法 角法

吟蛩

遐遍速選

▲此四字吟蛩又点ヲ加ル字

▲遐字音緯字

吟蛩

四法

了

了

勒点十法之第六

毛いとのこと也

出筆 梅角

毛ゆ色

毛ゆ

わすゆること解也

玉案 同右

吟蛩

遐之

違

全之名爲遐 上智字喚吟蛩知者無失錯

此註有上

毛之乃字と全くこれハ遐乃字と全くこれハ吟蛩乃字なり這箇これ遐遐吟蛩なり名と喚なり毛ゆ

名字喚吟蛩知者無失錯

毛と字ふ名付る附吟蛩と

毛ゆ

吟蛩

四法

阜

陸陰陽陷

阜

▲阜字ハ爲阜字

阜ハ丘ゆ陵ふ陵ハ阜ハ

陸ハ陸ハ陸ハ

此四字吟蛩点ヲ用ル字

吟蛩

阜

陲

横五竪也五

勒点十法之第七

毛阜の字なり陸と陰と陽と陷と

玉案 出筆 角

各左ニ注ス

陲左名音阜

陲右名爲垂

横五竪也五

勒要人爲

此註有上

毛横も又竪也又竪乃点重なり竪ハ阜乃法横五

毛と竪乃又法と横ハ

梅核いし毛と竪乃又法と

横ハ

梅核なり

毛と横乃又法と

案阜毛と杏仁ハ

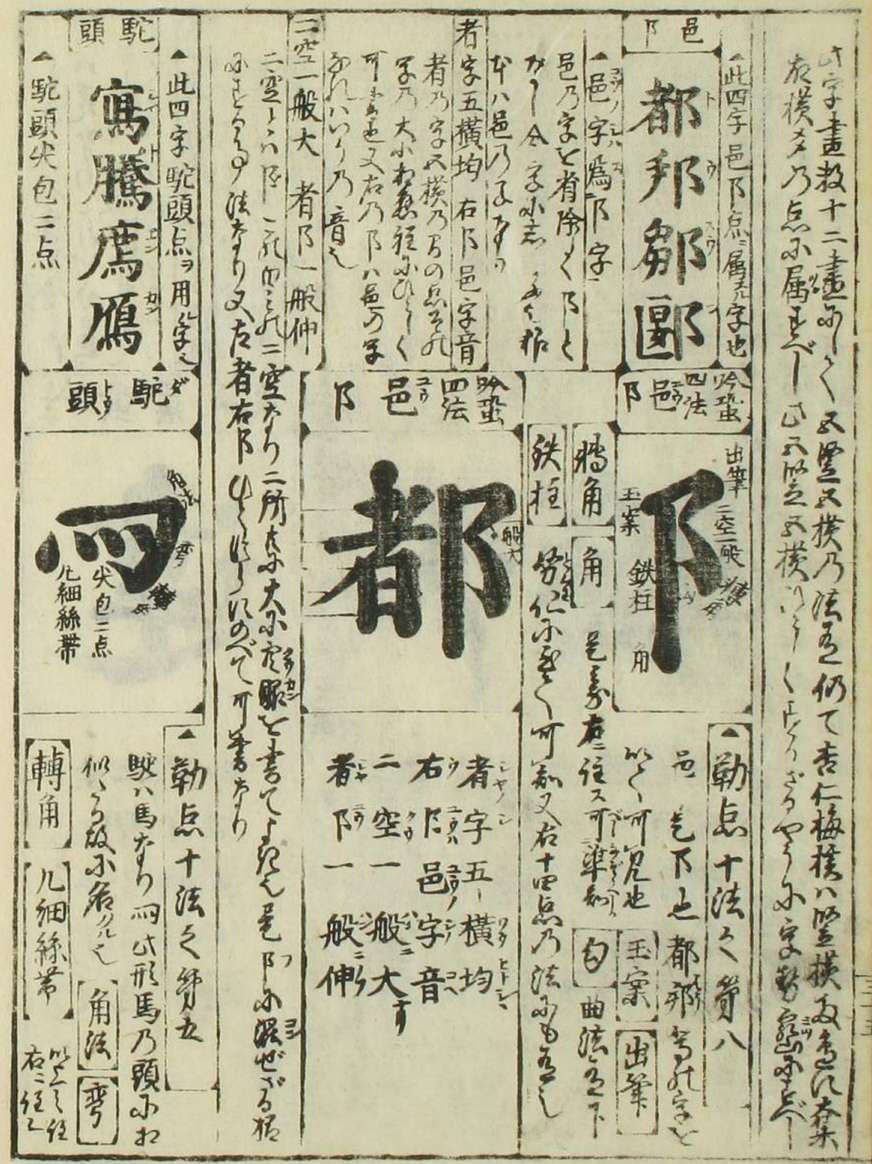
一玉案なり

一玉案なり

一梅核なり

毛と横乃又法と

三十五


邑
都邦鄭
邑
都
駝頭
寫鷹鴈
駝頭
岡
勒点十法之部八
勒点十法之部九
勒点十法之部十

舞鶴
禄裝禎禝
舞鶴
舞鶴
禘
禘
勒点十法之部十
駝頭
為

衣章量長短衣章要躰閃

引ヨリ点ヲ引ヒク躰閃ノ法肝要ヨリ躰閃ノ二字ハ横ノ字ハ狂ヒリ
衣竪ニ錯上点　章竪穿五眼
ヒニ線ノ引ヒ　章竪ニハ章ノ字竪ノ白点ノ穴天所ヒニ

○　右永字八法并二勒点十法畢

是ヨリ　永字八法并三勢点変化六法ニ分

▲此四字鉄柱点ニ属スル字

鉄柱

臣匾卧慣

▲鉄柱四法俱全

鉄柱　一　此点鉄ノ柱ヒトツ〳〵ニ〳〵ツヲ記シ中ノ勢ノ横ノ四法ハ上縦下長中勢傍横ノ四法ハ上縦下長中勢傍横ノ四法ハ上縦下長

竪画四法

竪画四法
上縦下長中勢傍横

上縦下長中勢

竪画四法　毛上縦下長
中勢傍横ノ四ツ
毛ハ勢ノ竪画ノ延ル筆ノ棒
頭ニ引キ初ル上ノ所上縦
横所ヨリ下ヲ下ニ延ル下ノ棒ニ角横

▲此点鐵ノ柱ノ横ノ点名

鐵柱

宦

横

宝蓋連臣匂五一空
点画一一一　按ニ名一姓
此註上解

宝蓋連臣匂五空
点画一一　按名姓
鉄柱ノ字上ハ宝蓋ノ点
下ニ臣ノ字ヲ横ニ
なり又横ニ点ヲ

ニ云あるべけく書ハ
毛ヒとり　ニ云ひとして点画
てニハ元てノ点毫名
名性ノ不ヒ毛ヒ失ヒ
しく可出なり又鉄柱ハ
勢点六法ノ事ヒ

蔡邕崔瑗ノ按ル永字八法和解云

勢一
ハ竪画ノ横ノ画ノ横ノ
云ハ筆ノ棒ヒ
勢棒ハ竪画ノ横ノ
ヒ筆ノ棒ヒ
勢ハ竪画ノ横ノ
勢ハ力ヒ
勢棒ヒ
勢ハ竪画ノ横ノ
勢ハ力ヒ
勢ハ竪画ノ横ノ
勢ハ力ヒ
勢ハ竪画ノ横ノ
勢ハ力

鳥雛

駝蛇虎怨

▲此四字鳥雛点ヲ用ヒル

▲鳥雛雛鳥無毛

鳥雛

乙

直 平 角 圓 平 弯

▲勢紀六法之第二

此点形ハ弓ノ如ク雛ノ仰ル姿ニ

【上縦下長】 縦ハ直ク

ハ形ル

【弯】 弯四ノ角ハ丸ク

【角平】 角ハ平ニ

馬字連点横五

馬它竪五示然

駝ノ字ハ馬ノ横ハ長ク蛇ノ字ハ竪ハ長ク

又右ノ它ノ竪ハ長ク

点画各按法度ヲ

横竪空眼一般

鳥雛

駝

五 横 五 竪

馬字連点横五

馬它竪五示然

点画各按法度

横竪空眼一般

○永字法ハ鍾繇伝云勢ハ弯張而弯曲ク 須弯張上ノ弯ハ弱セリ眞ハ上ノ弯ハ強ク下ノ方ヘ向ル示ヒ云ノ如シ

○永字玉義之伝云勢ハ弯張多ク放ハ空ハ多ク放ハ空ハ多ク放ハ空ハ

曲尺いて　これ大こ乃曲
ゆるふ似さり又口法ゑ
下ふ須ちろ

上段與下段　共作一字看
上乃繼と鳥ら紙分て
繼と上段ら一ゑ代下
作とゑ上繼下鳥一字
ゆつめさ見ろ　看と後り
白多イ　一ツも書ふ
あさやく書ハ筆法自ら天然と既見れ

曲尺

繼鳥

上段與下段
共作一字看
空眼甚分明
筆法自然見

此註上解

空眼甚分明　筆法自然見

ゆま空眼見

▲此四字共ニ馬椿用ル字

馬椿

慷慨惟慢

▲馬椿似椿馬

馬椿ハ小馬と作ゑ
なり代下ニゑ

馬椿挿喪脇馬椿上下短
馬椿右ふ短と縫ハ懷乃
なり小と喪乃脇
ふ〻ゑ〻ゑ又馬椿ハ
上も下もゑ〻
右邊十四衣　左邊竪二点
右邊ハ十四衣ゆ

馬椿

懷

▲勞紀六法之第五

椿と代〻代い馬と作ゑ
代なり小点ふ
ゑ

上段　下長　杏仁　鉄柱法　角楞

此註上解

▲此四字象筋用ル字

象筋

拜爾軍早

▲象筋三史各備

象筋一ゑなり三款
一ハ左法二ハ中筋三ハ右
家右ゑ乃ゑ〻ゑ代ゑ法三
法そ乃ゑ乃てゑ〻ゑり仮
ゑれれ界ゑ

象頭兩象筋照應勿糊摸
齋乃字上乃ハ象筋乃有略と
ゑなり下乃用乃字も象
筋なり下も中ゲ象筋
なれハ象筋とゑ代ハ
上竪三空清下竪三空疎
く書ゑ〻又下乃竪

象筋

齋

上　三　五　下

象筋

拜爾軍早

軍早筋乃ゑ代ハ
仮小左法と
ゑり仮ハ代い上乃

無法

下

中勞　乖　露

無法　毛ゑなり代ハ

▲勞紀六法之第六

代点仮ハ筋小仮ゑり仮名ク筋ハ
代点ハ代点拜

象筋

龜頭兩象筋
照應勿糊摸
上竪三空清
下竪五空疎

此註上有

●永字筋

永字八法勞紀六法ゑ畢

○右永字八法勞紀六法ゑ畢

▲此四字線勾点ヲ用ル

線勾

手拿孚撃

▲線勾一平下斜

線勾ハ丨形ニ線ハ下ノ
孫あてとゆく上たつくた
下斜ふらゝあげると線勾
ともに仮下小横もゞごと

宅蓋心四丁　朶畳四方匾

寧乃字上い宅蓋乃点
次い心乃字を次い四乃字
を次ハ丁乃字ましに巳字と
合して寧乃字とあせるし
朶畳ハ木乃上りたる
枝と朶とそんぞれた
より畳ハさくむたくさ
ねるえしむとられい宅蓋
心四丁とくこかくて寧
乃字とあるが木乃枝乃
上より垂る乃ずく
あるにりてこゝ匾と云ハ
あるあるとと匾と云ハ
点画長短あり木枝

線勾

▲羅紀十三法第一

毛筆い強ゆりトのゝ上と
強くあゞる級小名法ゝるし
各別ニ可知

上縦下長垂下精角一挑斜平

直下

▲羅点挑勾ゝ式

毛挑いかゞるし勾いかゞむ
なり式い法なり
ゆゞけかゞむる法式なり

直下　精折一挑

直下ニこの
筆式垂ふ下り筆毛ゝ強ゞ
ゆゞくひゝくへふかゞけるゝゝと知ゝとにたゝふ毛ゝるし

線勾

寧

▲茶色雑張小横ゝ永字八法乃和解ニ云

丨ハ勾乃組ゆゝく永字乃第四筆ゝ羅ゝと云
筆鋒と勢恵乃中小蹟しめ収横ゝて紙

寶蓋心四丁
朶畳四方匾
丁勾切要平
丁一身寧ニ上一点　此ハ上ニ有

乃ゆてゆゝくゝ
ぬくなり

丁勾切要平　丁身寧上点

丁乃字ゝゝあげ平小横
けゝとゝふゆゝ小横ゝ肝要
なり又丁身ハ丨ゝこれなり
一ゝ中ゝ丨乃ゝ
入ゝく書てゝ紙ゝ線勾ゝ
羅点乃義紀なり

て羅ゝゝ勢ゝゝ乃ゝゝ
筆ゝゝ乃ゝゝ
線ゝゝ
凡字線ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

▲此四字緊勾点ヲ用ヒ

緊勾

察景縈

▲緊勾上下太斜

緊勾ハ丨これ上下のそゝとあがるしたゝかにとびくくるゝあがるしたゝかに上下ともにそゝぐあがるの上下ともにそゝぐあがるの勾

兩火蓋蟠龍小字共攢縈

兩火とい炊これ蓋ハ一名也蟠龍とハ名也なり炊一名小也字とあつめくくるの字とあつめくくるの字とあつめくくるの

小丈面あり又挨あり押
ひくさ丈面あり風丈挨
丈ニ上下ふあるなくく
いろこもうもそれくくの
点乃法どうくうれしと
再將筆鋒明剣利
些一兒鷲鈍不成風

▲此四字竹籜ニ属ス

竹籜

竹籜撥撥相竹籜

竹籜撥撥相竹籜
竹籜ハ才ニ撥ニ
ハ撥才ニ撥点
乃くうり竹乃籜小似
ようなる名つくる
環字音爲絹犬字來相伴
毛環乃字毛爲絹とよ
べしと又右名ハ環なり
結名ハ才乃字ニ結てい
撥く環乃字とくるり
才ハ毛大なり

玉案斜出筆挨弯
小弯各上ニ可準知
挨筆行行毛筆と
挨筆
筆と撥とあるし
再將筆鋒明剣利
些一兒鷲鈍不成風
此註上ニ有

▲趨点十三法之第九

竹籜
点形作籜小似ると板小名
犬弯直弯指折角挑直形
竹籜
弯
点紀各お可準知
ハ撥毛解と撥ハ点ハ
案解ト些撥
案ハ挨し解い
撥小筆形ハ
徐疾ハ

環字音爲絹
犬字來相伴
休論犬與罠
空眼一援雜
此註上ニ解

▲此四字鸞翅ニ属

鸞翅

飛翻騫翼

▲鸞翅丙乃象鸞翅
鸞翅ハ飛毛鸞乃翅
ふくくくり丈飛ハ飛
くくたふ鸞乃翅と名
名付くく
鸞翅一撥又鸞鉄
内有二一面嗅鉄柱

飛乃字乃ふとくれ鸞
翅乃毛ハ一撥ハ又
又鸞翅ハ一ハ一の飛毛
なり内一面ハ一毛
なり別毛撥乃点ハ
左右空眼盡分眼
其間正肩大三竪

鸞翅

斜弯
多集
内
要
平
圓
二点止客内
二点ハ心乃心なれバ
ハ点ハ乃点
又点ハ
ハ点ハ乃心
ハ点ハ二
ハ点ハ二点止客内
くくくく

一此四字飛雁点ニ属ス

飛雁

幾載戒戰

▲飛雁し勢飛雁

飛雁し点雲ノ如ク長ク長ク

兩口竪應中 甲字四空類

兩口ハ單乃ノ乃中ノ
又竪應ハ單乃中乃
一毛ノ上乃支口の
中ニ通ル和名ノ如キ
又甲乃中乃空類ノ如キ所
ハ都テ可ク有リ

通共六横勾 要興戈字配

此乃ハ六横勾ノ
ハ戈字ノ如ク
ハ戈乃字ノ如ク

▲趯点十三法ニ分ル七

此点飛雁乃飛ル如ク故ニ

下長案斜弯

此点注前ニ可準知

弯按按

此点ハ弯リ筆ト按按ハ
上ニ一挑要正直勾
上乃方ニ出テ居ル者ト
ハ筆ト按ハ
上ニ
上乃方ニ出テ居ル者ト

一此四字弯筆点ニ属ス

弯筆

忠愛聰憲

▲弯筆し点ハ如ク

直下筆

弯筆

此点ハ弯リ筆ハ
此点乃形筆乃ニ
ハ筆ト
ハ筆ト

▲趯点十三法ニ分ル八

弯ハ弯リ筆ハ
此点乃形筆乃ニ
ハ筆ト
ハ筆ト

変ル筆し此点ニ
ハ筆ト
ハ筆ト

一中二下点 三筆四犀角

一ハ中ノ上ノ
二ハ筆ノ
三ハ筆ノ上ノ
四ハ犀角乃点ニ

五下右旁点 上下要圓活

五ハ右旁ノ点
上下ハ要圓活

直下筆

前可準知

上上按筆

直直一挑

上上ハ筆ト按
直直ハ一挑

弯弯弯

此点ハ弯ト筆ト也

一中 二下 三筆 四犀角 五下右旁点 上一下要圓活 此註上ニ解

▲此四字浮鷲点ヲ用ル字

浮鷲

光臨見元院

▲浮鷲し形如浮鷲

浮鷲ハ乙形ノ如ク

光脚奥浮鷲 弯弯照此勢

光脚ハ乙ノ如ク
乃点ノ如ク
勢ト
ハ光乃字勢ト

▲趯点十三法ニ分ル九

此点飛鷲乃ハ浮鷲
浮鷲乃如ク

頓斜下筆按

此頓

浮鷲

光脚奥浮鷲 弯弯照斯勢

胸肚弯應中不許過不及

胸之光乃字以一也肚之光乃字肚フ也弯之光乃字腑し也以字弯乃弯乃たし胸と肚との三ツ中ふあるやうふ見紙付て可出きりは三ツ乃中あるりるるもくくさるもれふ許さらと切りて

斜ふゆゑミトリ字成点
接下シ斜ふ下とし

項弯胸弯

方ハ弯なり
あふまる所要なり

項胸乃

内要平者可
接平一抵

内乃方ハ平ふ
前可準知

胸肚弯應中
不許過不及

此註上解

▲此四字龍尾点ヲ用ル字

龍尾 龍毫毬亂

▲龍尾曲似尾

龍尾しは点まるして
勢乃尾ふ似くる点し

龍尾

龍尾

勾直正
直直
上平圓

▲超点十三法之分十

は点形ハ龍乃尾ふ似くる故長
直直弯平平圓上一抵可
勾直正

何も前ニ可準知

龍尾

龍尾

共一画

▲亀頭亀尾共十画
空白空眼眞鱗甲

此註上解

亀頭亀尾共十画
亀乃字頭くり尾ふ勾
まて字乃ごとく十画ん

空白空眼眞鱗甲
右甲乃空白空眼まして
亀乃甲文と乃ごとくに
書留て鱗甲ハ亀乃甲文
なりは亀乃字画多さ字もしけ
乃間架結構と以く能字乃画多と可教知

▲此四字玉勾ヲ用ル字

玉勾 邃糅象掾

▲玉勾ハ弯相勾

玉勾ハ丨は点ふそて
下とかけてくるあるし
ふ点乃右下ふとる

横空斜空空一飛

横空ハヨは空白と指し
斜空ハ象は空白と指し
は横空斜空白空の
所一飛ふ可書なり

上頭竹頭頭總觀

上乃竹の竹頭ふくくくくく付
てはふ和毬とるやうふくくくく
毛玉勾の超点乃以く

▲此四字獅口ヲ用ル字

獅口 初留虜劒

▲獅口一ツ 如獅口

獅口ハ毛ふりは点乃
くくら獅ま乃口ふ似り
須下ふあり

玉勾

玉勾

尖弯

弁ふ尖ふて弯し
ふと付くくし

直小弯斜接一抵勾

薄弯

特く玉ふ紙
皆前ニ似

▲超点十三法之分十一

直直
上平圓
勾直正
上平圓
勾直正

獅口

獅口

玉案

玉案

接角出

弯

▲超点十三法之分十二

は点形獅ふ乃口ふ似くる故名ノ
出案接角出

玉案弯腦弯一抵

これ案と
角と接出下ルなり

何も例ふ可準知

▲横空斜空空一飛
上頭竹頭頭總觀

此註上解

劒字下脚齊　食点要枝快

劒字下脚齊食点要枝快刃字一撥來不許点犯碍

此点註上解

獅口

劒

▲此四字宝蓋点ノ用ル字

宝蓋下蓋諸字上承

宝蓋八ハ　元ハ点ハ　ずず

上ハ　ずず

宝蓋共又六数一一歩置相停

宝蓋ノ字ハ宝蓋ノ点ト

六教横点ハ

宝蓋

寶

寶蓋

宝

▲耀点十三法ニ分ル十三

此点形ハ蓋ノ如ク成ル故ニ

宝ト云ハ宝物ニ

宝ト云ハ

到頭折四便好

▲毛上ハ

勢式圖

毛頭ハ

毛宝蓋点ノ筆勢ノ法式ト

到頭折四便好

折以了不好

去下了不好

▲毛ハ

▲毛ハ

寶蓋共又六数一一歩置相停

日字女字正正宝蓋蓋的分明

此註上解

▲此四字聚水ノ用ル字

聚水

鴻灝灑澹

▲聚水別在首点下

聚水ハ

聚水

策点

是也

是永字ノ第五

策点変化聚水点也

斜按細帯直細帯

是ヨリ

永字八法第五策化七法ニ分一

▲策点七法ニ分一聚水

毛聚水ト云ハ聚ハ

右永字八法第四趯点十三法ニ畢

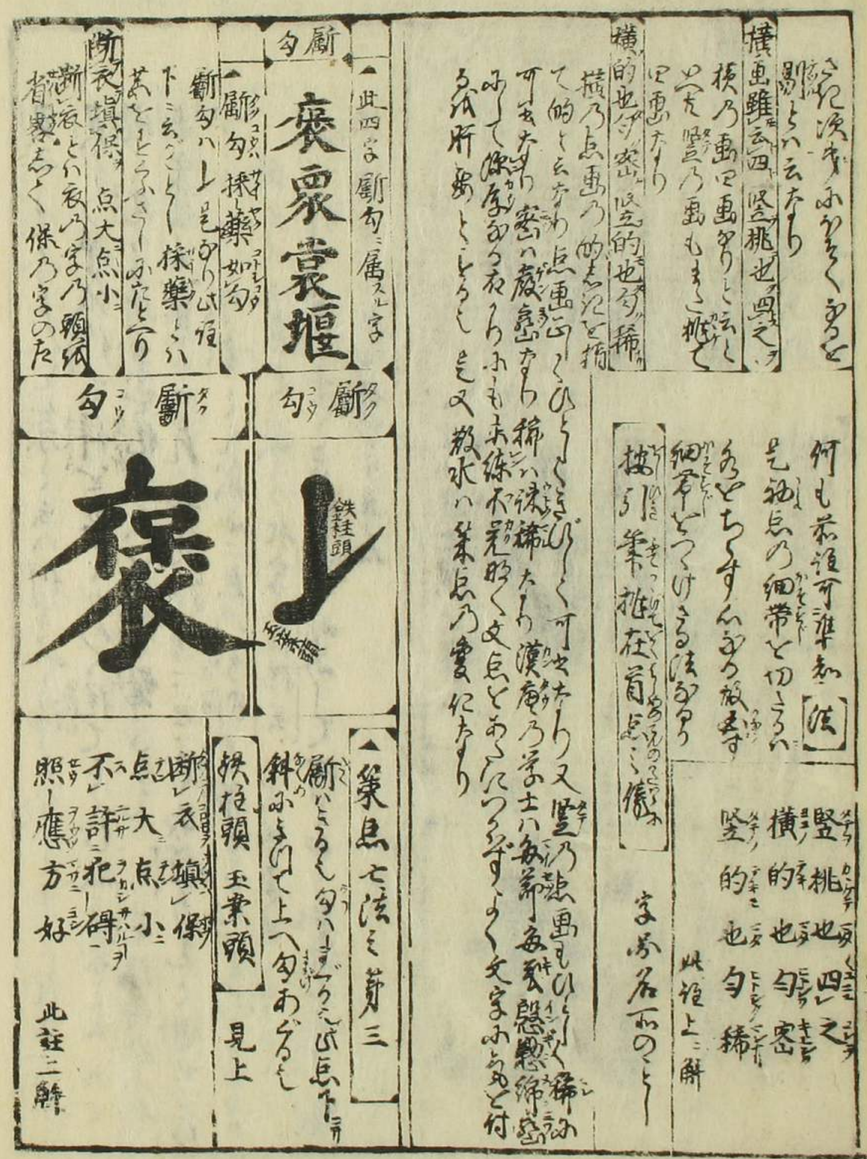
出筆梅

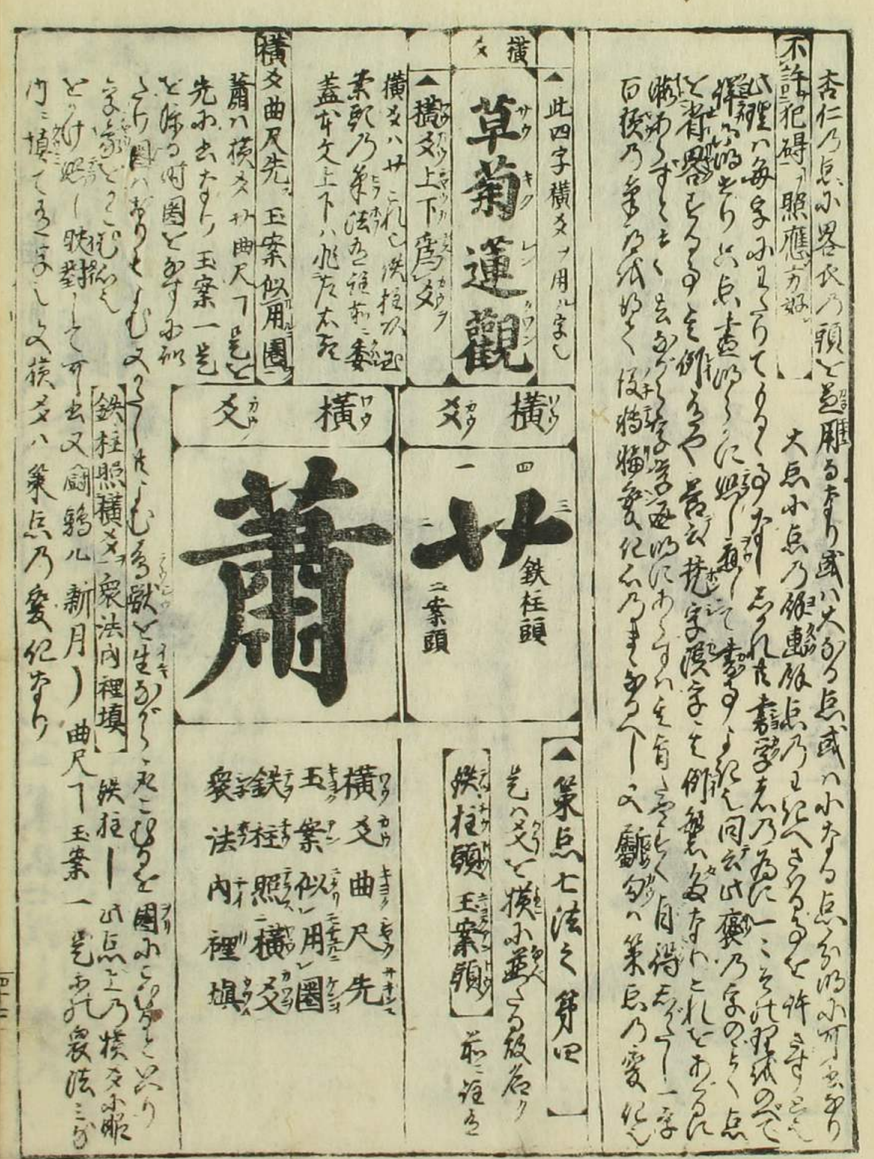
何形注可準知

斜ニ按細帯直細帯

按引筆拠

聚水ハ木詹撥ハ數是詹横
澹乃手左邊ハ聚水ヲ
詹撥ハ右方乃撥ノ点
と云り撥点木枝の点
ハ詹ハ詹ハ点名ハ
ハ詹ハ詹ハ点名ハ
ハ詹ハ詹ハ点名ハ


竪桃也四之
横的也勾密
竪的也勾稀
此注上二解
字形名而のごとし
策点七法之第三
鉄柱頭
玉案頭
見上
此注二解


横文
草菊蓮觀
横文
横文
鉄柱頭
二案頭
横文
蕭
策点七法之第四
鉄柱頭
玉案頭
横文曲尺先
玉案似用圈
鉄柱照横文
衆法内裡塡

▲此四字金錐ヲ用ヒル

民擇特損

▲金錐尖且直

金錐ハ一ツ　これ有りて
小筆とおなじ
下小後もとのごとし

一刀分二段　筆勢自然見

一刀ハ一ツ此金錐の点を指
て云なり　分二段とハ
此の上下の勢ひ小点を
先稍ひろく金錐の点小邪紙
の右傍の角小邪紙
付くかくれハ自然と二段とならん

▲此四字虎牙ヲ用ヒル

職聯聲駭

虎牙

▲虎牙ハ一ツ　虎口牙なり　これ
虎の牙小似て乃故名名
付て下ふくろ

金錐

▲兼点七法ヒ第六

此点形金の雖小似る故に
接筆一線接一挑
毛筆共用ひ　ひとへまたを
用ひ　ひとへまたを
用ひ　ひとへまたを

金錐

一刀分二段
筆勢自然見

此註上解

虎牙

▲兼点七法ヒ第六

此点形虎牙ハ似ル故名

虎牙

耳爲中照上二撇須要停
聲ノ字耳ヲ中ニ書ク
上ノ撇　これハ字面ノ撇点
ハ字ヲ面ノ撇点
右ノ点ハ字ノ面ノ撇点
筆法切均勻　勿使他人評

▲兼点七法ヒ第七

接筆　把筆使下筆
一挑　挑

毛筆共用ひ

耳爲中照上
二撇須要停
筆法切均勻
勿使他人評　此註有上

▲此四字梨梁ヲ用ヒル

梨菜

池施迤詑

▲梨梁雰旺清
梨梁ハ一ツ　毛ヒ頂ハ下ヒ
四竪空一般　筆法各自安

竪四ノ点白一般ヒ
法各ノ　ヒ所小点
ヒ所書ヒ

梨梁

▲兼点七法ヒ第七

梨梁

四竪空一般
筆法各自安

七十二例 啞紀曰法乃中 巢

也字長舒腿
平圓勾至天 此註上解

●石永字八法 弟又巢紀七法之畢

●自是永字八法 弟六 掠紀十法 弟一

▲此四字懸戈ヲ用ルモノ

懸戈 戊月糜膳

▲懸戈指事如懸戈

懸戈ハこれなり点乃戈と指事ハ軍陣ニ用ル指事ハ紙さしまくふけりて

横画十架匀布

横画十架匀布

点竪田心照皿中

懸戈 ノ

▲掠点十法 弟一

点形ノ如く撇点乃組なり

懸戈 廬

横十架

○蔡邕崔瑗ハ永字八法乃和解云

六法 掠 ノ 点撇点乃組みて永字乃弟六巢

横画十架匀布

点竪田心照皿中

此註上解

▲此四字飛帯ヲ用ル字ナシ

飛帯

殊殞殱殮

飛帯

殊

出業按 接法斜行 短

○永字安倍乃和解

○永字倭錄倭文乃法乃ふみ

▲掠紀十法之分二

掠点形帯と蔑とをあらはすなり

▲飛帯一段一翻一正

飛帯ヲ一段一翻ト云ハ中半ヲ上ヘ一正ト云ハ正ヲ中半上ヘ一正ヲ一翻也

飛帯左甚短　朱字右太長

殊乃字ハ左ハ短く飛帯乃点ヲ右ハ朱乃字なり右ハ朱乃字ハ左ハ長く右ハ長く左ハ短く

上譲下也譲　上下一般量

左ハ上下譲合わせて下也又間架結構乃儒

飛帯

殊

一般　一般

飛帯左甚短

朱字右太長

上譲下也譲

上下一般量

此註上三解

經　頭乃打ヒ筆乃書ヒ方

接法斜行　各筆段ヒ方ヒ筆ヒ

出業按

▲掠紀十法之分三

法直　中折　法直　中折

法直　中折

法直　中折

法要清　結構要是

▲此四字雙ケ点ヲ用ル字

雙ケ

離

▲双ケハ両併爲雙ケ

双ケハ併　とれなり此往

ケ

竹康走之　共爲蓬字

竹康ハ蒙乃まく走之ハ

これなり蒙と云ふおも

きを走とたふおもふ

あひめく蓬乃字なるな

▲掠記十法の節目

角

仙

到些

ケ

雙

蓬

▲竹康走之

共爲蓬字

各右ハ後ろ可へ準知

中折下雩雩

中折下ハ自然く雩行て

ものひるなり

正中使匂鎌

鳴鴨最法明

兩腿一般雩

此註上解

鳴鴨最法明兩腿一般雩

鳴鴨乃点

鳴鴨乃字と点くもろく匂鎌乃点

ものくの〔ものく〕

ものくの字と点くもろく匂鎌乃点

ものくの字と点くもろく匂鎌乃点

ものくの字と点くもろく匂鎌乃点

画斜ハ陽乃字ノ右ノ方ノ斜ノ如クニ書ハ陽乃字ノ如クニ書ハ柳乃字ノ如クニ書ハ柳乃字ノ如クニ書ハ

▲此四字屋角ノ用字

妙者少勸

屋角

▲屋角一撇似屋角

屋角ハノ一撇ハ公位ニ不ル一撇ハノ一点屋角ニ似ル

少字在上　隹字在下

隹雀乃字ハ共ハ上ニ隹ハ下ニ合セテ雀乃字ト為ス

▲掠化十法ノ分六

屋角

此点形屋ノ角ノ如クニ名付ル

落筆深痕　右徐ス

徐徐斜形　徐ハ安

屋角

雀

少ノ字在ル上　隹ノ字在ル下

横四爲ル架

竪三爲ル間

柳　箕

竪四

陽

横四

竪四無間

横四不錯

柳箕斜勻

陽善無過

此註上解

□宣一般

此筆画乃四乃点形ハ多クハ

程ホ一般ホ点ノ如クニ書クコト可キナリ

▲此四字蛇頭点ノ用字

孝承茅荐

蛇頭

▲蛇頭蟠旋似蛇頭

蛇頭ハハ点ノ如クニ曲リ点乃ノ如クニ蛇乃如クニ曲リ点乃ノ如クニ蟠ル点乃ノ如クニ旋ハ点乃ノ如クニ

攢簇謹切　雨而共子

攢ハ簇ノ如クニ謹ハ切ノ如クニ雨ハ而ノ如クニ共ハ子ノ如クニ

筆法精微　須憑轉折

筆法ヤウヤウヤウ

▲此四字疊烏ノ字ヲ用ル

徳行微健

▲疊烏上下如疊烏

疊烏ハ乃毛ノ如ク乃形ノ如ク乃ハネノ如ク乃ハネノ如ク乃ハネ

▲此四字新月点ヲ用ル字

新月

鳳凰飄颻

▲新月 新上之月

新月ハ丿ヲ上ヲ下ノ方ヲ反ホ点ヲ点ノ方ヲ彩上ヲ月ホ点ヲ彩ノ月ノ名

○蔡邕永字八法啄点乃雀と和解しく云

七啄ノ毫絶機乃銀ホーて永字乃牙七巻し撥と云ひて啄くと云いたちり筆と伏く右ホ向く逆源と啄ホ右ちり脇と揭く左ホ罷い毫張疾し　佐ニ啄い者啄し名孔初と啄くちり　左孔三孔ちりー　ハ点と書附たちり筆と伏く右ホ向く逆源ホ　てス右ちり脇と揭く左ホ罷い毫紛張疾ホけりくちりくちりし　佐ニ啄い者啄し名孔初と啄

○永字女偽ハ和解ニ云

問曰撥と啄ハ何ぞや論ホ云撥ハ蒙偽乃ちし啄ハ蒙ひ乃ちし啄ハ蒙ひ乃ちし　佐ニ啄い者啄し名孔初と啄　撥ハ蒙偽

▲此四字戲蝶点ヲ用

戲蝶

鎖巡綱糊

▲戲蝶三蝶戲柳

三蝶ハ巡ことなしゆえ点乃
くちと蝶乃戯色拵ゆ
ゆゆ乃反名くるし花下
ふ沼ところがゝゝ

三蝶一様飛フ　果字下邊屋

ゆこ重乃形ニ蝶乃ちゆ
あゝびく一様ふちぶゝくゝ
とゆりゆこ重乃下をふ
果乃字ヒ賀く巣と拵し
竪横間架正　筆法要清詳

▲哨化四点し牙三

六頭要法三雪一勢上下俱齊空無寛窄

戲蝶

▲哨点乃蝶乃戯ハ飛ぶ西洲
ろ反ふ戯蝶し名付ク

六頭要法三雪一勢上下
俱齊空無寛窄

六頭ところゆ上下六乃ゆ
を牙点乃法ハ三ッ雪ろ
ゆ

一様ふ三ゆゝ上下ハ同ゆ形ふちろし乃乃白ハと
も黒白ゆ分ちそひくもせゝゆゆゆふちろし
空ハ白所し黒ハひろ〳〵寛ハせゝゆこし

戲蝶

巢

三一蝶一様飛
果字下邊屋
竪横間架正
筆法要精詳

▲此四字木人点ヲ用ル字

木人

皇殷射鷂

▲木人立姿人勢

木人ハ一ハ立ちれし牙点
ハ木人乃ちくゆ勢ひふ
仰ち反ま名づちなり
花下乃法ふちすゆ

隻字下腿短　隄防鳥四点

隻乃字下乃腿ヒ短く
書し右傍乃ちハ花ふ
くちりくゆちやうりゆ
四点ヒあさやうんつゝゆち
ゆゝれし

雇鳥一般高　下脚各收歛

左ま乃雇又右傍乃ち
二ゆゝ〳〵ちさ一様ふ書くゝ
反方名くゝく筆ヒ收くゝ
乃ゆ四点毛ふく様し

木人

鶴

▲哨化四点し牙四

直直　撇角

▲牙点木人乃ゆくれい名

鶴字孫痕一分斜形直直
毛細筆れ線の痕ヒ一分斜
ふ形し痕くゝ

隻字下腿短
隄防鳥四点
雇鳥一般高
下脚各收歛
○此註有上

字府之論曰七十二筆字圖再結構七十二例虎牙点之次連犀梁点蒼策化七点奚又七十二点筆勢圖除犀梁点加豚化中二把豚化中戲蝶木人点加業化中一ト了然有據非錯誤也

●右永字八法し牙七　哨化四點し畢

木人乃竪重駝頭乃ちゆ
二ゆゝ〳〵ちさ一様ふ書くゝ
反方名くゝく筆ヒ收くゝ
乃ゆ四点毛ふく様し

牙点哨化

自是

●

▲此四字三折点ニ用ル字

遊魚

通達進遍

▲遊魚三折腰ハ二三折

遊魚三折腰ハ〆点ニ
此法下ニ見ル

横五玉案　竪爲鉄枉
建乃字横乃点ハ皆玉案
乃点ニ又竪乃一長ハ
鉄枉乃点ニ

法製遊魚　三折妙處
下ニ法ニ見ル

遊魚三折腰

建

右十三字ハ口授ニ

遊魚三折腰

横五玉案
竪爲鉄枉
法製遊魚
三折妙處

永字八法之第八　揉化八点之合注　蔡又云楽

▲揉化八点ニ分一

魚頭平　魚背圓斜　魚尾三停　魚角四停　魚肚四停　魚角三停

▲此点ハ魚乃角中ニ在リ
之ニ見レ勝ト打ヲ
ヲ見ル故ニ名ヲ
魚頭平

魚背圓斜

魚乃頭ニ
ハ平ニ書シ
魚乃背ニ法ヲ
ハ〆ク
斜ニ書シ

一停頂三停魚肚四停魚尾三停

角乃角ニ
ハ法ヲ

○蔡邕永字八法楽点乃後ト和解ヲ云

楽点又揉点ニ云

楽ハ揉ハ揉化八点乃紐ニ楽ハ揉ハ揉化八点乃紐ニ楽ハ揉ハ揉化八点乃紐ニ

○永字八点陸続法乃和解二曰

[illegible]

○永字八点玉篇之法乃和解二云

[illegible]

▲前結構七十二字例中策化七点第六利牟梁点者知而有七十二点筆勢圖啄化四点中而結構字與点文圖有渡入混雑者然有其所謂既前記之畢若結構七十二字例啄化四点中戯蝶木入二点七十二点圖参差有策化七点中今又若捺化八点中金力鳴鴨曲直續断之六点挑之此加七十二点筆勢圖掠化十点中把結構七十二字所在掠化十点中犀角蛇頭疊鳥新月闘鶏箭五点加七十二点圖捺化中捺化從来爲八点然把除六点加五点也故於平捺化闕二点及七点者也所久可尋

▲此四字漫遊魚点ヲ用

漫遊魚

趙越逢誕

▲漫魚一雪身一雪

漫遊魚ハ一雪身一雪ニ[illegible]

二已下邊共下空照上空

巽乃字ハ[illegible]頭乃接ふ二乃已乃字ハ[illegible]下ふ共乃字ハ[illegible]巽乃字ハ[illegible]又上乃二乃已乃中乃[illegible]白空乃中乃白空[illegible]

走之稀々安空々背照應

漫遊魚

▲捺化八点七十二

▲此点ハ[illegible]

平 [illegible]

斜雪

下斜雪 上ふ準[illegible]

二已下邊共
下空照上空
走之稀々安
空々背照應

▲此四字金刀点ヲ用ル字

金刀

大皐莽綻

▲金刀偏備金力

金刀ハ八ツ　それあり紀
那乃ハ八ツ　右ノ用ル名
ツ金ハ　皐莽ノ用し
れ下ハ紀ノ名

右邊結構密　右邊犬字小二
右ノ名ハ西多き左結構
ヒ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
犬ハ字ハ西ノ　右ノ名
小ハ字ハ西ノ　紀ノ
二字相並行　躲閃方纏好
右ノ名ハ右後二ヒ一字ハ合ヲ
獻乃字ハ　引分ハ方
躲閃ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハ　

▲此四字直点ヲ用ル字

直

及吸級建

了無勾為直

直ハ了ヲ引ケバ曲点ノ了ヲ得ベシ

了字無勾要弯

了ハ直シ了ハ曲シ

了ハ傍安

了ハ直シ了ハ曲シ

了ハ腿求弯高些

了ハ直シ了ハ曲シ

人撇求清平直

▲接伝八点ヲ分ツ

直

了

無勾為直

直

及

高

▲無勾為直

了

出峯接

弯一帯

右乃後者ハ

ナホ粹シテ知ベシ

出峯

弯

▲此所ハ了ヲ出峯ト曲点ト直点ヲ分ツベシ

▲此四字曲点ヲ用ル字

曲

盈躲透愴

了有勾為曲

曲ハ了ヲ引ケバ直点ヲ得ベシ

有勾絶為乃了撇二字要

乃ハ了ノ勾ト曲ノ勾ノ間ノ勾ヲ直トシ及ハ了ノ一撇ヲ曲ト直トヲ分ツベシ

了弯要圓々渾然無痕可

了ハ了ノ二字ノ弯ハ直ト曲トヲ分ツベシ

▲接伝八点ヲ分ツ

曲

了

有勾為曲

曲

乃

乃及分曲直

▲此点ハ了ヲ出峯ト曲点ト直点ヲ分ツベシ

出峯

弯

出峯接

弯

將

名後ハ了ヲ出峯ト弯接ノ一句ヲ

有勾纔為乃

了撇二安妥

了弯要圓圓

渾然無痕可

▲此四字續点ヲ用ル字

續 母梅海婉

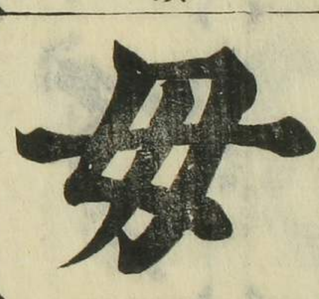
▲女中ノ一画爲續

女中乃一画ハ母し巳女の中と引通しこの一画なり巳一画と中ハそこうぢてもくぶ通ーこうと稜しらし母乃字ハ初斜ーて見タヘ

女中一画爲續　女字中有二画象対之形禁止之辞無爲

女乃中の丿巳一画つきて互放後とらし巳一画ハさまーき形ちあろ巳こられこうくちふくこあれてで婉あ乃弦小書がよ仕し母と一画とこ
きしく書きあるれとい
ーあこしろ結ハ乃
巳稜点い孫紀乃変点
放ふ又こうあーうとし

續



孫紀八点之分七

▲毛母乃字八考ーー又ハ
しえん乃河用ふ点ハ巳
毛母乃字の中の一画ハ巳
うるーくちく点イと点ふ
書べ紀しあこーこられこう
孫ふ書ふ不可し

○七十二点象形乃部のこと

母即無字母又母之母分二
續斷　母母二字ノ註也

女中一画爲續
女字中有三
象奸之形禁止之辞無爲

○七十二字結構乃例のこと

▲此四字断点ヲ用ル字

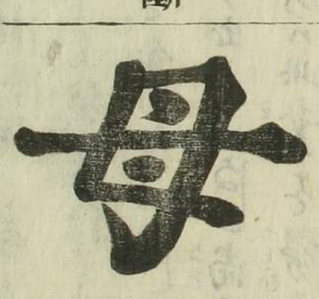
断 母敏毎貫

▲女中ノ二点爲断

断点ハこれ女中乃二点し為トの復ふるし

女字安二点象両乳之形故爲又母之母

女字乃二点ハこれし母母ハ横断乃象と為て又母ふ用乃ハ母乃断点を用ふ乃ふるし点画曲折結構乃依ー毛と一所ふ附紀ふる例ハ毎日新用復ふるく再こふ
なおと出ん点ハ一ふーく
繁ふるるへるーふ放ふト
ふい七十二点象形部ふ
七十二字結構例とお並
上ふい所属ロ字ーくの例
と挙ふ毎し女冊乃迂
ふると下来ふるるふ



斷

斷

孫紀八点し分八

○七十二点象形乃部乃こと

母音敏母字　毛又母
母乃音ふ似ーく

女字安二点象両乳之
形故爲又母之母

放ふ又母乃母乃
これ　巳二点女字乃胸中
ふあり毛ん点二乃乳房ふっ
とうし又母乃母しこうれし
母字ふいあしさうるし

○七十二字結構乃例乃こと

女中乃二点と断とす　女中の
中乃二点切こうる放ふ断とるし

女字安二点象
両乳之形故爲
又母之母

右七十二字点画結構共終之

筆道ハ六藝の最一ニして奥儀ハ達人ハ容易ニ[illegible]
ぶべしこれ雖しかるに此書ハ[illegible]ときて偏ニ世[illegible]
を忘れ学びおこし励むべし天地ハ[illegible]の如ク入魔達
て深秘悉備天下ハ廣名をハ[illegible]ハ世の
書家此巻中より授華して一家の口傳と称し門人ハ
其傳を授るハ外傳内傳と号し價甲乙を定め次第
して屢許しあり不[illegible]にして何ぞ如斯を得ハ
[illegible]んや是皆財を貪の徒ハ[illegible]く[illegible]ハ元筆ハ
口授口傳此書より出ざるい[illegible]尚是かゝい秘中秘ハ[illegible]と
いへども愛著[illegible]のい此業を勤る人の一助ハ[illegible]
なんすを云ふ

和語陰隲 新鑑草 全部五冊

此書いにしへ今漢土にいつし[illegible]事ハ実[illegible]ハ君に忠と
[illegible]し父母に孝と[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
貞操をもつて天道の恵を蒙り或ハ[illegible]ハ不忠不孝不義
不義貪欲邪淫妄暴を慎しして[illegible]ハ天英[illegible]羅ハ[illegible]
果報の著明なるを載せ理人ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
懲易く和解しなるべ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
界に入り天の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

版元書林 大阪心齋橋通南久宝寺町 堺屋新兵衛
浦園いつもの[illegible]